

長与町 GIGA スクール構想の方向性について

1. 本町の GIGA スクール構想における一人一台端末の選定について

長与町では、これまで ICT 環境の整備等を計画的に進めてきたが、令和元年 12 月に文部科学省から「GIGA スクール構想の実現」として補正予算が示され、令和5年度まで段階的に「1人1台端末」の整備等を行うことになった。

しかし、令和2年度に入り、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急事態においても、ICT の活用により全ての児童生徒の学びを保障できる環境を早期に実現するため、令和2年度中に整備することになった。

年度	R2(事前準備)	R3(1年目) 一方向	R4(2年目) 双方向	R5(3年目) 情報の蓄積・利用	R6(BYOD 準備1年目)	R7(BYOD 準備2年目)
内容	アカウント配布 ガイドブック作成	ビデオ教材 オンデマンド教材 ドリル演習	課題の配布回収 クラウドの利用 キャリアパスポート	デジタル連絡帳 朝の健康観察 リアルタイム	3年間の検証	BYOD のルール 作成

上に示すように長与町 GIGA スクール構想を 3 か年計画とする。1 年目は教師から生徒への一方向のやり取りを中心に行う。2 年目は、教師と児童生徒との双方向のやり取り、3 年目にそのやり取りの範囲を広げていくものを考える。さらに、4 年目以降は、令和 8 年度からの BYOD を念頭に置き、3 か年計画の検証を行いつつ BYOD のルール作成や環境整備を行う予定である。

2. 本町の GIGA スクール構想における一人一台端末の利用について

○教育的視点

対面指導(アナログ)とオンライン教育(デジタル)との「ハイブリッド化」

オンラインとオフラインで利用できる学習教材の開発、利用

→端末ができることではなく、学習効果を高めるための利用を考える。

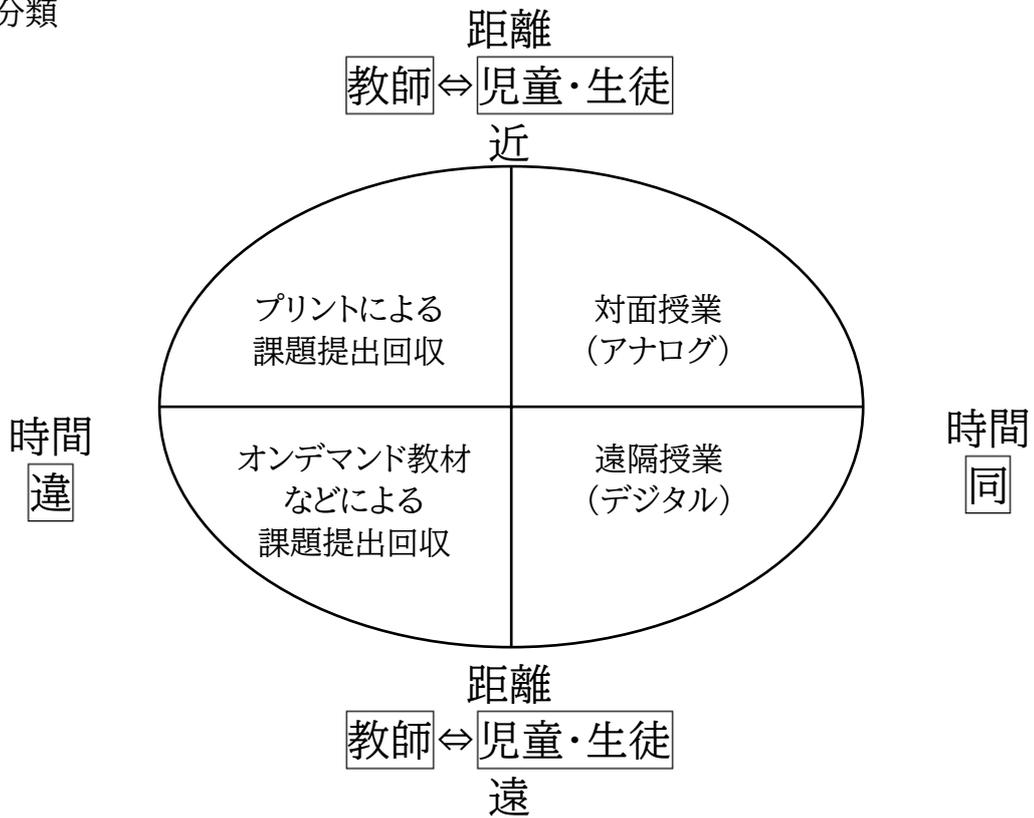
→ICT スキルの向上のためではなく、学習用端末として一人一台端末の利用をさせる。

○ハードウェア的視点

端末の学校と家庭での利用方法

→長与町 GIGA スクール構想5か年計画とし、5年後の BYOD を念頭に置いて取り組む。令和3年度から令和5年度までを3か年計画とし、GIGA スクール構想における一人一台端末を利用した学習に取り組む。その後、2年間の検証、見直しを経て、R7年度からの BYOD の実施を ICT 環境の変化を見ながら行う。

3. 活用場面の分類



4. これから取り組む実践例について

○デジタル連絡帳 オンライン オフライン

帰りの会での連絡事項を生徒の端末に送信→保護者は家庭で確認する。

→ Google ドキュメント(文書作成ソフト)や Google スライド(プレゼンソフト)で課題を作成する。

→ オフラインでの作業にも対応する。

○授業のリアルタイム配信 オンライン

Google Meet を使って、教室で行われる授業を家庭にリアルタイムで配信

○朝の健康観察 オンライン オフライン

Google Form で健康観察を作成し、毎日記入をさせる。

○反転授業用ビデオ教材 オンライン オフライン

授業内容の解説動画を作成 <http://kurata.edu.nagasaki-u.ac.jp/teaching-materials>

○ドリル形式のアプリによる演習問題と進捗状況の把握 オンライン オフライン

Apple 社の無料学習用アプリを使ったドリル形式の学習

→各教科のカリキュラムに活用場面を入れる。

→各校種、教科で活用するアプリを選定する。

→子供の学び応援サイト 学びを止めない未来の教室 おうちで学ぼう NHK for School

○デジタルとアナログを融合させた演習問題 オンライン → オフライン

学校のオンライン環境下で演習問題の配布し、オフラインで使用する

→ Google ドキュメント(文書作成ソフト)や Google スライド(プレゼンソフト)で課題を作成する。

5. オンライン学習を行う上での留意点について

○著作権への配慮

- 授業中ならば同時中継での教材等のインターネットを介した配信は可能
- 教室に児童・生徒がいない教室での配信は許諾が必要
- 口頭で資料のページ数などを指示し手元で閲覧しながら指示を出す。
- 教科書をベース(教科書を使った授業)に教師が説明する動画
- 黒板等に教科書の一部を引用 最小限度なら OK 引用に明らかにする

○個人情報

- 教育委員会が情報セキュリティポリシーを策定している(長与町)
- 外部に個人を識別できる情報の提供しない
- オンライン学習による児童生徒の肖像権の保護を行う
- 端末と G suite のアカウントの紐づけを行う

6. 端末の管理について

○端末の借用

- 基本的に端末は児童・生徒が学校から借用するものとし、借用書を1年ごとに提出させる。

○端末の充電

- 学校の環境(オンライン)と家庭の環境(オンラインまたはオフライン)での利用を行う。端末は自宅で充電を行うこととする。

7. アカウントの管理について

○階層構造

- 右のような階層でアカウント管理を行う。次年度以降のアカウント管理を各学校の管理者権限をもつアカウントで行う。

○ID パスワード通知書の発行

- 来年度より、入学年度の情報をもとにアカウントを作成し、IDパスワード通知書を発行する。

○アカウントの運用

- 現在、在籍している児童・生徒については、今年度発行したアカウントを卒業(小学生→小学校卒業、中学生→中学校卒業)するまで使用する。
- 来年以降は、入学年度でアカウントを発行し学校卒業まで使用する。

r0211101@edu.xii.jp

入学年度 学校番号 年組番号 ドメイン名(組織名)



8. 長与町 GIGA スクール構想 5 年計画について

年度	R2(事前準備)	R3(1年目) 一方向	R4(2年目) 双方向	R5(3年目) 情報の蓄積・利用	R6(BYOD 準備1年目)	R7(BYOD 準備2年目)
内容	アカウント配布 ガイドブック作成	ビデオ教材 オンデマンド教材 ドリル演習	課題の配布回収 クラウドの利用 キャリアパスポート	デジタル連絡帳 朝の健康観察 リアルタイム	3年間の検証	BYOD のルール 作成

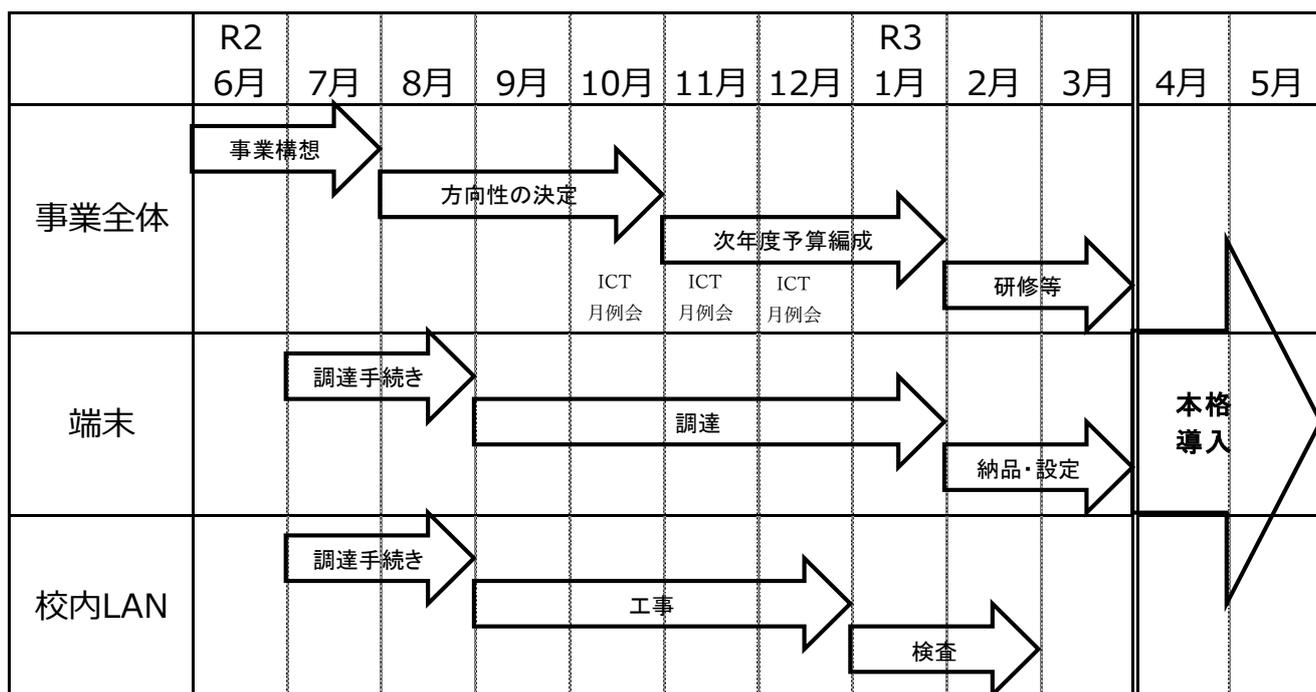
9. 長与町 GIGA スクール構想ガイドブックの作成について

→R3年度からの GIGA スクール構想における一人一台端末の利用のために、R2 年度末までに、「長与町 GIGA スクール構想ガイドブック」を作成する。

→そのために、今後、「2. これから取り組む実践例について」の中から、各学校で試行実施を行い、それを資料にまとめ、ICT 教育担当者研修会にて情報共有を行う。

→各学校から集めた資料をまとめ、「長与町 GIGA スクール構想ガイドブック」とする。

10. 今後のスケジュール



ICT が全てではありません。道具の一部です。

管理用アカウント

ngy1t@edu.xii.jp

学校番号 長与小 1t 高田小 2t 洗切小 3t
長与北小 4t 長与南 5t 長与中 6t
長与第二中 7t 高田中 8t

教師用アカウント

ngy1t01@edu.xii.jp

学校番号 01~50まで

※01~50までのアカウントを作成し、誰がどのアカウントを使うか学校で決める。異動にした教師のアカウントについては、クラウド上の情報をすべて消去し、新しく赴任した教師に引き継ぐ。

児童・生徒用アカウント

案1

10000@edu.xii.jp

案2

r0211101@edu.xii.jp

入学年度 学校番号 年組番号 ドメイン名(組織名)

懸案事項

○管理者アカウント(ngy□t@edu.xii.jp)にユーザー管理者の権限を与え、ユーザーアカウントのすべての管理(追加・削除・変更)の操作が可能となる。

▽学校で転出入児童生徒のアカウント管理ができる。

▼担当者が異動したときに引き継ぎが必要である。

○アカウントについて

来年度の本格実施に向けてアカウントの使用について

1. 現在、コロナ対応で発行したアカウントを来年度以降も使用し、新入生に新たにアカウントを発行する。
▽在校生のアカウントの発行の手間がなく、各学校は新入生のみの作業となる。
▼在校生の入学年が全員 R2 となる。
2. 現在発行しているアカウントをあくまでコロナ対応のための臨時的なものとし、来年度は全児童生徒にアカウントを発行する。
▼来年度学期初めにアカウントを発行する必要がある。
▼入学年度の情報を調べなければならない。